

加東市総合教育会議 資料

発達サポートセンター 10年のあゆみ

2026年8月25日



本日の説明内容

01. 発達サポートセンター「はぴあ」

02. 発達障害

03. はぴあの業務

04. 10年のあゆみ

05. これからに向けて



01. 発達サポートセンター「はぴあ」

(2017年)

平成29年6月

幼児期から就労までを見通した支援体制を構築するため、
発達障害をはじめ、支援の必要な方に関する業務を集約し
たワンストップ型の相談窓口として開設

はぴあ
(happier)

みんなが、より happy になれるように

Happy (幸せ)

Peer (仲間)

Pier (柱・橋脚)



はぴあの体制

4つの課で行っていた業務を整理・統合と
幅広い相談に対応するための人員配置

健康課

子育て支援課

学校教育課

社会福祉課



加東市教育委員会
発達サポートセンター「はぴあ」

専門職の配置

保健師・心理士・
教育相談支援員等の各専門職を
配置

外部専門職等との連携

外部の専門職や関係機関との
連携体制を整備

02. 発達障害

代表的な発達障害

グレーゾーン

診断基準を満たさないが、
特性や困りごとが見られる

自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・ その場の空気が読めない
- ・ 自分の話したいことだけを一方的に話す
- ・ 初めてのことや、急な予定変更を嫌がる
- ・ 自分の興味があることに執着する

知的障害（知的発達症）

※知的な遅れを伴うことがある

学習障害（LD）

- ・ 知的な遅れはないのに
読み書きが苦手
- ・ 漢字がなかなか覚えられない
- ・ 計算ができない

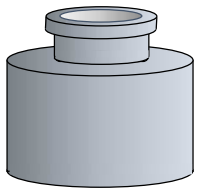
注意欠如多動症 (ADHD)

- ・ 集中が続かない、忘れ物が多い
- ・ 落ち着きがない
- ・ 考えるよりも先に動く

発達障害について

- 発達障害は、脳の機能障害
- 生まれつき、一般的な脳の働きと違う部分があり、発達の偏りや能力のデコボコが生じる
- 認知に偏りがある
見えないものはわかりにくい
(時間、気持ち、雰囲気、タイミング、暗黙の了解、臨機応変、「ちゃんと」、「しっかり」など)

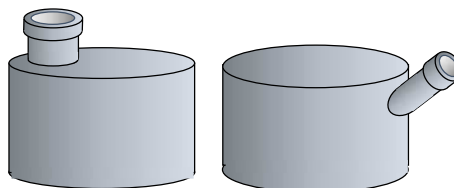
瓶に例えると…



定型発達



知的障害



発達障害



「親の子育ての仕方が悪い」
「本人の努力が足りていない」
ということではない

Aちゃんのケース

Aちゃん

- ・ 友だちと遊ぶことが大好き
- ・ いつもニコニコしている
- ・ 見通しが立たないと不安
- ・ 聴覚過敏、境界域知能
- ・ 複数のことを一度に覚えておくことが苦手



小1 通常学級

- ・ 1日にたくさんの授業がある（何をするのかわからない）
- ・ 教室のいろいろな音がずっと気になる
- ・ 自分でやることや覚えることが多い
- ・ 勉強がわからない
- ・ テストで×が多い



学校に行きたくない
テストは嫌だ



学校が終わると
ぐったり



小2 通級指導教室を利用

- ・ 朝一番に1日の予定を詳しく教えてもらえる
- ・ 静かな環境(通級)にいる時間ができる
- ・ イラストカードを使って、指示を1つずつ伝えてもらえる
- ・ テストで○がもらえる
(答えが書いてあれば○をつける)

しんどさ

不安

学校が楽しい！

テストも楽しい！

授業も嫌じゃない



発達障害を持つ子どもへの支援の必要性

早期支援
が大切

● 自己肯定感の向上 と 社会参加の意欲醸成

適切な配慮の中での成功体験を積み重ね、社会参加の意欲を高める。

● 特性に応じた能力の発揮 と 自立の促進

一人ひとりの特性に合わせた学習方法や環境調整を行い、自立に向けた力を育む。

● 二次障害の予防

周囲の理解不足や環境のミスマッチによる失敗体験の繰返しを防止する。

【二次障害】 自己肯定感の低下、不登校・引きこもり、抑うつ状態、不安障害 など

● 保護者・家族の負担軽減と孤立防止

周囲の理解促進により孤立を防ぐことで、家族の心身の健康を保ち、虐待等のリスクを減らす。

03. はぴあの業務

1 相談事業

2 巡回相談

サポートファイル

3 療育事業

4 研修・啓発



1 相談事業

- 電話、来所相談

- はぴあプラザ

子どもを遊ばせながら相談できる場

電話・来所相談では
保護者だけでなく、
学校や園の先生方の
相談にも対応します。

- 医師、心理士による相談

- 言語聴覚士による言語発達相談

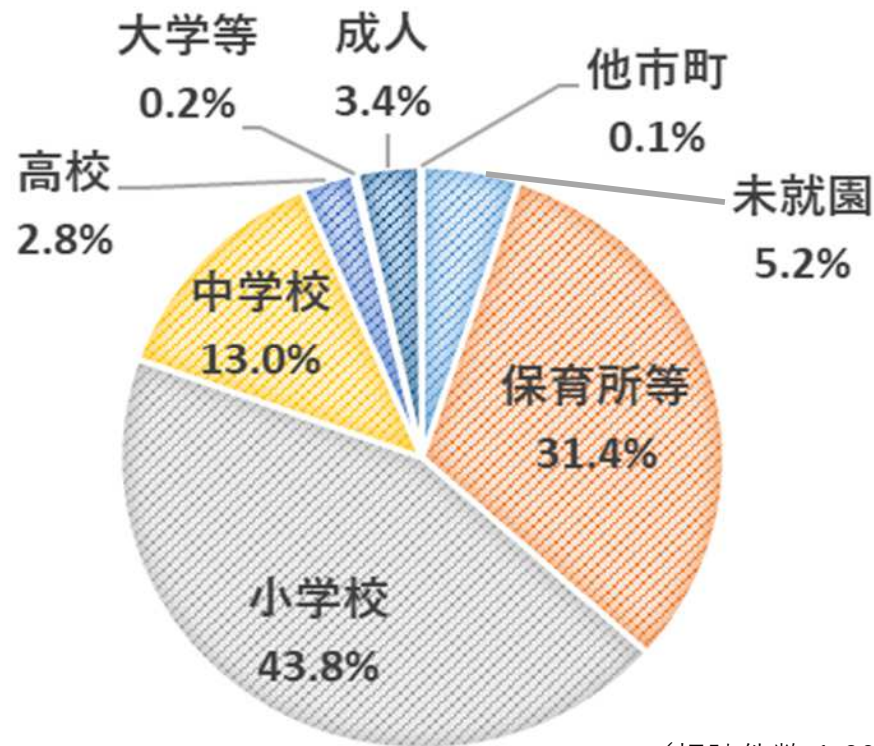
- 理学療法士、作業療法士による運動発達相談

- 心理士による発達検査



相談傾向（R7年度実績）

相談件数 所属別内訳



（相談件数 1,696件）

相談内容

- 就学前
 - ・ 行動面や生活面、社会性にかかわる相談が多い
- 就学後
 - ・ 行動面、生活面、社会性にかかわる相談に加え、学習面での相談が増加
 - ・ 合理的配慮の相談も加わる

2

巡回相談

- 園巡回相談・学校巡回相談（定期/随時）

はぴあ職員や北はりま特別支援学校のコーディネーターが小中学校やこども園等を巡回し、園や学校の教職員と必要な支援を一緒に考える。

定期巡回相談は、
市内の全園・
全学校を訪問
（年1回）

- 専門家による巡回指導（DELIコラ）

大学教授や言語聴覚士、心理士等の専門家とはぴあ職員が小中学校での授業の様子を観察し、学校の教職員に指導・助言を行う。

- 小1へのひらがな聴写テストの実施と授業改善

テストの結果をもって学校を訪問し、子どものつまづきや授業の在り方を学校の教職員と協議する。



- ペアレントトレーニング

良好な親子関係を築くため、保護者が子どもの強みを伸ばすスキルの習得を目指す

- 療育体験プログラム（はぴあプラスワンルーム）

概ね2～3歳の子どもたちの社会性の育成を支援

- 小学校就学移行支援プログラム（e-スタ）

年長児を対象に小学校生活へのスムーズな適応を支援

- 友だちづくりスキルアッププログラム（友-U P）

対人関係の課題を持つ小学校1年生の社会的スキルの向上を支援



療育の効果

保護者からの声

- 子どものして欲しくない行動にすぐに反応せず、様子を観察したり、理由を考えたりするようになった。自分の対応を変えるだけで、子どもの良い変化を感じることができた。（ペアトレ）
- 療育に対して前向きなイメージを持てるようになった。（プラスワンルーム）
- 就学に向けての心準備ができた。「行ってきます」と元気に家を出発する子どもの姿を見て嬉しく思う。（e-スタ）
- 学校でのトラブルが減った。（友-UP）



4

研修・啓発

● 学校・こども園等教職員の資質向上

- ・ 小中学校教員
- ・ こども園、保育所、幼稚園の保育士等
- ・ 小中学校支援員
(介助員、スクールアシスタント、生活指導補助員)

● 保護者、市民向けの障害理解と啓発の取組

【R8年度開催】

- ① 「子どもの自立のために今、私たちができること
～その子の良さを最大限生かす支援～」
(講師：NPO法人えじそんくらぶ代表 高山 恵子 氏)
- ② 「子どもの発達障害
～子育てで大切なこと、やってはいけないこと～」
(講師：信州大医学部こころの発達医学教室教授 本田 秀夫 氏)



サポートファイル

高校卒業まで行政管理
高校卒業後は個人管理

● 趣旨

配慮が必要な子どもの情報を集約し、関係者が支援方法等を共有するためのツール

● 内容

子どもの成育歴、特性、支援・配慮等の情報
（個別の教育支援計画、個別の指導計画等）
保護者や園・学校が情報をまとめる

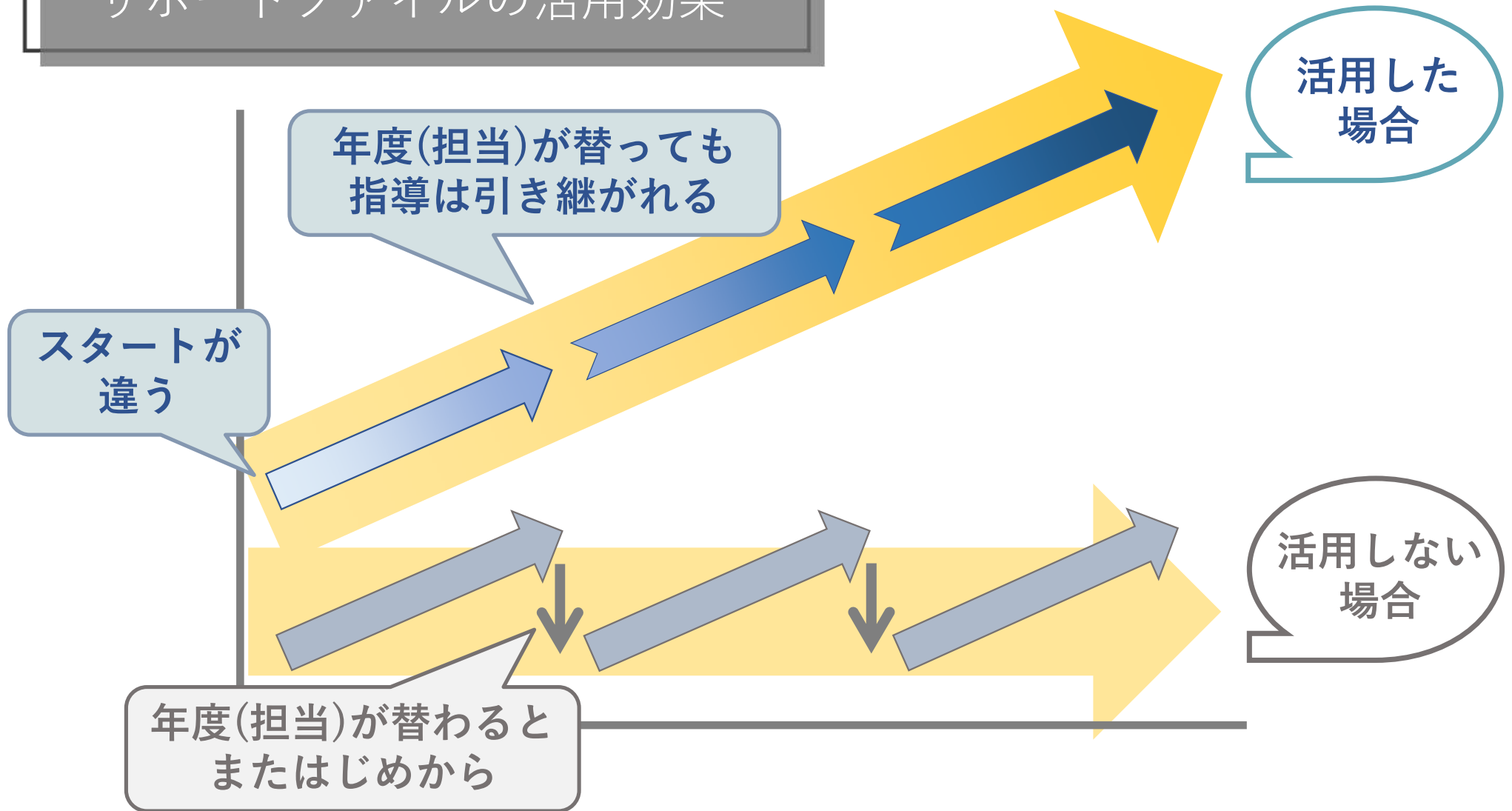
● 作成対象

継続した支援や配慮が必要な子ども（保護者希望時に作成）



- ✓ 子どもに関わる各機関（支援者）同士や、各機関と保護者が情報を共有することで、共通理解につながり、一貫した支援を行うことができる。
- ✓ 進級、進学先に情報を引き継ぎ、所属が変わっても切れ目ない支援ができる。

サポートファイルの活用効果



保護者の願い

このサポートファイルを作るとき、これは「うちの子のトリセツだ」と思って作りました。特性がある子どもを理解し、それに合う配慮や支援をしてもらおうと、うちの子は助かます。先生が替わるたびに学校へ行って、担任の先生に話をしてきたのが、記録として引き継がれていくので、素晴らしいと思いました。

そのおかげで、うちの子は、何とか成長していきました。途中、引き継がれているのかな？と思った時期もあって、先生に、「金庫にしまっておかないで、活用してください。」とお願いに行ったこともありました。

このトリセツを、今後は、自分で活用していくのですね。
それが、自立に向かうということですね。
今までの先生方に感謝です。



04. 10年のあゆみ

ワンストップ体制から
連携の拠点に

安心

本人・保護者

庁内関係課

保育所・こども園

連携

連携

医療・福祉機関等

小・中・高校

共生

連携

市民

特別支援学校

はぴあ
(ワンストップ)
(つなぐ)

「つなぐ」取組

学校とこども園

保幼小連携

就学に向けた情報共有と引継ぎ

特別支援教育コーディネーター ネットワーク会議

サポートファイルや教育支援員会等に関する共通認識

教職員研修

支援方法の共有・方向性の統一
相互理解と多角的視点の獲得

顔の見える関係づくり

保護者と学校・こども園

発達検査所見への同席 こども巡回相談

子どもの特性や支援方針等について
担任と保護者が情報を共有

保護者と学校と療育機関

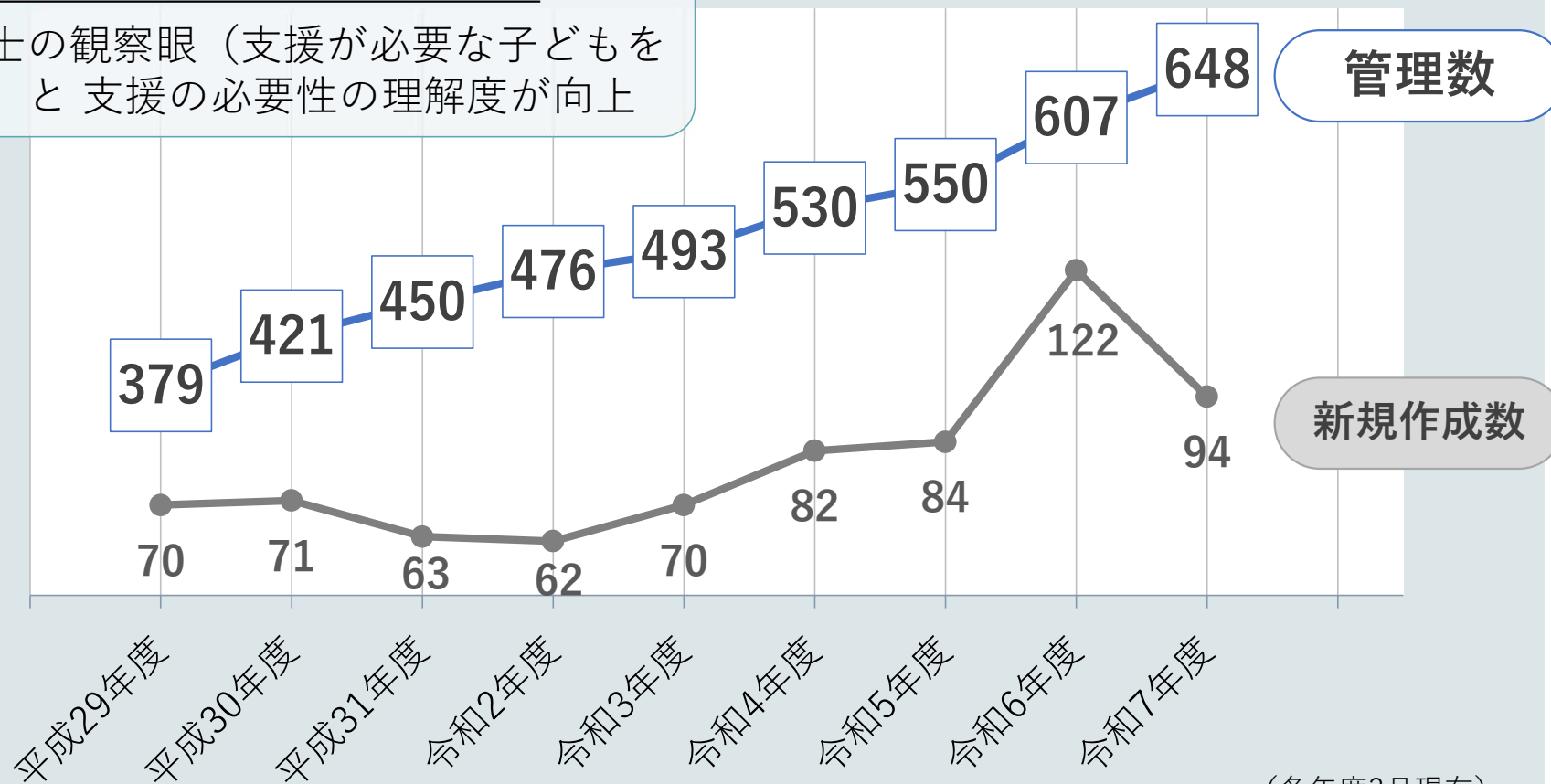
トライアングルプロジェクト

放課後等デイサービス事業を利用する
子どもに関する情報の共有

サポートファイル管理・作成数の推移

園や学校から保護者に作成を推奨

教員・保育士の観察眼（支援が必要な子どもを見極める力）と支援の必要性の理解度が向上



（各年度3月現在）

サポートファイルの作成率（支援の充実）

小中学生 約 18.4%

特別支援学級 在籍者
約 98.3%

通常学級 在籍者
小学校 約 13.4%
中学校 約 12.1%

加東市立学校在籍者／R8.4月現在

小・中学校の通常学級で「学習面又は行動面で著しい困難を示す」
子どもの割合 → **8.8%**

このうち「個別の教育支援計画」 作成率 18.1%（全体の **1.6%**）
「個別の指導計画」 作成率 21.4%（全体の **1.9%**）

（R4年度文部科学省調査より）

未就学児

年長児 約16.3%
年中児未満 約2.1%

※R8.3月現在

高校生

約 7.2%

※R8.3月現在

Aちゃんのケース②

Aちゃん

- ・ 友だちと遊ぶことが大好き
- ・ いつもニコニコしている
- ・ 見通しが立たないと不安
- ・ 聴覚過敏、境界域知能
- ・ 複数のことを一度に覚えておくことが苦手



継続的な支援体制

- ・ 定期的なアセスメント
- ・ 校内での情報共有
- ・ 巡回相談による指導助言

など



小1 通常学級

- ・ 朝一番に1日の予定を詳しく伝える
- ・ 気疲れした時に休むことができる静かな環境を確保する（音への配慮）
- ・ 指示を1つずつ伝える
- ・ 支援員の配置



- ・ 就学前にこども園と小学校で情報共有（サポートファイル・保幼小連携）
- ・ 小学校で必要となる支援の検討と準備



やる気

自信

05. これからに向けて

連携

「乳幼児から成人まで」の生涯を見通した支援体制のさらなる強化

1

支援の必要な子どもの早期発見・早期介入・早期支援により
その人らしく生活できる「自立」を目指す

2

障害特性やニーズに応じた
保護者支援の充実

2

気軽に相談できる
ワンストップ体制

4

共生社会の実現に向けた
普及啓発

5

教職員・保育士の
継続的なスキルアップ

サポートファイルの活用促進

全教職員への
教育支援ソフト導入
(学校教育課)

アセスメントの活用
支援／指導計画の
作成補助

データによる
引継ぎ

支援・指導の充実
職員の負担軽減／業務の効率化

情報の確実な蓄積
円滑な引継ぎ

切れ目のない
支援

- 発達段階やライフステージなど、その時々状況に合わせた支援
- 「支援の空白期間」の防止
- 長期的な見通しを持った自立・就労支援

最後に

障害をなくすことが目標ではない

障害はその人の一部。

その人の個性・特性を理解し、

その人が自分らしく生きられる環境を整え、

その人の意思を尊重して、支援する。

「その人らしい自立」をめざす

「自立」とは、一人で何でもできることではない。

小さなことでも自分で決めていくことが大事。

失敗から学びながら、周囲に助けを求める力を育て、

感謝の気持ちや、人とつながる力を育むことを大切にする。

